

# 改造EV第1号 発進

## 部品メーカー育成目指す

市販のガソリン燃料車を改造した電気自動車（EV）を通じて産業活性化を目指す「あきたEV研究会」が、改造EV第1号車を完成させた。将来的には、県内でEVに必要な部品を生産するメーカーを育成し、「EV先進県」を目指す。

第1号車は、ダイハツの「ベース。エンジンを取り外し、モーターやリチウムイオン電池などを取り付けた。給油口を改造してプラグと接続すること

で、家庭用コンセントから充電できる。1回8時間の充電で40〜50キロの走行が可能で、試験での最高速度は時速120キロ。改造費用は計約180万円で、部品の購入費が9割を占めた。

研究会は今年7月に設

立。秋田市の自動車販売・整備会社の社長で研究会の会長を務める鎌田孝さん（47）が中心。昨年3月、EVの推進を財団法人あきた企業活性化センターに呼びかけ、賛同者を募ってきた。現在は、県内の電気部品メーカーなど民間企業16社と、県立大などの団体が参加している。

県内でEV改造用部品を一括で供給する態勢を構築することで、改造EVの普及で生まれる新たな市場の獲得を狙うほか、EVに関するノウハウを蓄積することとで、県内EV向けに部品を提供することも構想にあるという。鎌田さんは「EV関連産業が地域経済の活性化につながる」としている。

## 参加者

北秋田市商工会などは、衰退が進む中心市街地の活性化を目指し、参加者が協力して、空の殺人事件の謎解きをテーマにした「ミステリー旅行「サスペクツ」を同市の商店街で開催する。

リスベクツでは、旅行がで突然発生する事件の真相を観光客などに残された手紙や住民への聞き込みを通して推理する。犯人は参加者の中に隠れている。

一昨年、森吉山周辺の施設で「マタギ」をテーマにしたイベントを実施。全国から参加者から好評を博したことから、同商工会が企画を実施を商業商店街に呼び

## 試乗の知事「馬力十分」

活性化センターが委託事業として約250万円を支出し、研究会で第1号車の製造に着手。新潟県で改造EVコンテストから助言を得て、研究会の参加メンバーが昨年10月下旬に4日間で作成させた。12月20日に市道を取得した上で、11年4月に国が改造EVに必要な安全対策などの指針を

制定して以降、東北6県では初めて公道走行が可能になった。

第1号車が県庁で12月22日に披露され、県庁周辺の公道で試乗した佐竹知事は、加速がスムーズで、市街地で乗る分には馬力も十分」と満足げに様子。運動や買い物など近距離の移動に利用する車として可能性があると評価

した。研究会では今後、県立大で第1号車の走行性能をテストし、燃費などの公式データを測定するほか、PR活動に活用する。

また、参加メンバーが省電力型の空調設備や関係系の部品などの研究・開発を進めるため、2年度に第2号車の製作を目指す。研究会を母体とする改造EV用部品メーカーの新設を検討中という。

改造EVの第1号車に試乗する佐竹知事（左）とメンバー（一部修繕しています）

